


【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	6				シート作成者		-		-		
事務事業名	広報ちがさき等発行事業				事務区分	自治事務		部課かい名		企画部 秘書広報課	
事業の目的	広報紙などを活用して市政情報を発信し、市民との情報共有を図る。また、広告事務を展開し、経費負担の軽減を図る。				事業の目標	市が発信する情報に関心を持って読んでいただけるよう、「広報ちがさき」等を定期的に発行する。					
事業の概要	「広報ちがさき」「市政情報紙」「子ども広報マリンジュニア」「点字版広報ちがさき」「声の広報」「市民便利帳」を編集し、発行する。										
対象	市民、通勤・通学者、事業者				事業の性質区分	政策		業務計画	■		
指標	満足度(アンケート調査)(第2次実施計画) 発行部数(広報ちがさき+市政情報紙)(第3次実施計画)										
27年度(第2次実施計画)			28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)			30年度(第3次実施計画)			
目標値			実績値		目標値			実績値			
60%			75% (2,322,660部)		2,316,000部			2,316,000部			
事業費	実施計画事業費	27年度	28年度	29年度	30年度	※金額については1円単位で記入してください					
	予算額	-	47,163,000	39,174,000	35,228,000						
	決算額	46,585,000	47,163,000								
	執行率	45,337,891									
	従事者数	97.3%									
	職員	3.31	3.12								
	臨時・非常勤等	1.96	1.92								
財源内訳	特定財源	1.35	1.2								
	国庫支出金	150,045	250,000								
	県支出金	75,022	125,000								
	地方債										
	その他	7,417,500	8,237,000								
一般財源	37,695,324	38,551,000									

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性	
<p>「広報ちがさき」は、市政情報を伝えるための基幹的広報媒体である。市政情報紙は、通常の広報紙では伝えきれない掘り下げた内容を伝達するのに有効である。また、点字版広報ちがさき、声の広報は、目の不自由な人への情報伝達手段として有効である。市が情報を伝えるべきすべての相手方が、デジタル媒体で情報を取得することができるようになるまでは、紙媒体による広報は不可欠な事業である。</p>	
事業実施状況に対する分析(課題の抽出)	
事業成果	<p>予定していた刊行物は、すべて予定どおりに発行することができており、また近年は「広報紙の紙面がよくなった」「読みやすくなった」という声をいただく機会が増えている。しかし、紙媒体では、掲載した記事がそれぞれ伝えるべき相手方に伝わったかどうかを測ることは非常に困難である。</p>
事務効率	<p>広報紙等の制作にあたっては、民間での雑誌やウェブサイト等の制作・編集経験者を非常勤嘱託職員や派遣職員として導入することにより、親しみやすい紙面づくりや業務の効率化へとつながっている。</p> <p>一方、市民との情報共有という面では、現在広報紙の配布は自治会やマンションの管理組合を経由する形をとっているため、これらに加入していない世帯への情報伝達が見えにくい状況となっている。市としては、すべての世帯への配布を目指すところであり、その補完策としてコンビニや金融機関での配架やスマホやタブレットへの配信を実施しているがカバーしきれていないのが現状である。</p>
	
事業成果及び事務効率に対する評価	
<p>成果があがっているが、実施手法は効率的でない</p>	

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
事業(活動)の効率を上げる	<p>広報紙等の情報を必要としている人に確実に届けることのできる手法を検討する。</p>

4 事業を構成する活動に係る改善内容

事業を構成する活動(27年度)						
項番	活動内容	活動指標	目標値	実績値	予算額(円)	決算額(円)
6-1	広報紙の紙面レイアウト・印刷をする。	発行回数	24回	24回	13,265,000	14,094,448
6-2	自治会を通じて市民へ配布する。	1回の配布数	89,000枚	89,444枚	28,364,000	28,391,640
6-3	市政情報紙の紙面レイアウト・印刷・発行を委託する。	発行回数	2回	2回	1,841,000	1,868,400
6-4	点字広報の作成を委託する。	発行回数	24回	24回	354,000	352,272
6-5	声の広報の録音・配布を委託する。	発行回数	24回	24回	140,000	140,000
6-6	小学生が書いた記事を編集する。	編集会議の回数	2回	2回	49,000	46,344
6-7	子ども広報の紙面レイアウト・印刷を委託する。	発行回数	2回	2回	472,000	444,787
6-8	湘南広域広報連絡会を開催する。	会議の参加回数	4回	4回		
6-9	藤沢市・寒川町と広報紙の相互掲載をする。	相互掲載回数	4回	4回		
6-10	平塚市と広報紙の相互掲載をする。	相互掲載回数	1回	1回		
6-11	広報紙へ広告を掲載する。	掲載料	8,180,000円	7,417,500円		
6-12	民間企業と協働による情報紙を作成する。	市民便利帳作成費の削減額	2,790,000円	2,661,000円		
6-13	正確な市政情報を発信する。	訂正記事の件数	0件	3件		

27年度活動の結果を踏まえた28年度以降の改善内容		
項番	改善内容	経営改善方針への位置付け
6-1	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-2	広報紙の世帯配布率100%を達成するための手法を検討する。	位置付けない
6-3	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-4	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-5	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-6	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-7	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-8	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-9	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-10	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-11	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-12	これまでどおり実施する。	位置付けない
6-13	これまでどおり実施する。	位置付けない

事業を構成する活動(28年度)						
項番	活動内容	活動指標	目標値	実績値	予算額(円)	決算額(円)
4-1	広報紙の紙面レイアウト・印刷をする。	発行回数	24回		15,237,000	
4-2	自治会を通じて市民へ配布する。	1回の配布数	89,000枚		29,022,000	
4-3	市政情報紙の紙面レイアウト・印刷・発行を委託する。	発行回数	2回		1,826,000	
4-4	点字広報の作成を委託する。	発行回数	24回		381,000	
4-5	声の広報の録音・配布を委託する。	発行回数	24回		200,000	
4-6	小学生が書いた記事を編集する。	編集会議の回数	2回		53,000	
4-7	子ども広報の紙面レイアウト・印刷を委託する。	発行回数	2回		444,000	
4-8	湘南広域広報連絡会を開催する。	会議の参加回数	4回			
4-9	藤沢市・寒川町と広報紙の相互掲載をする。	相互掲載回数	4回			
4-10	平塚市と広報紙の相互掲載をする。	相互掲載回数	1回			
4-11	広報紙へ広告を掲載する。	掲載料	8,108,000円			
4-12	民間企業と協働による情報紙を作成する。	市民便利帳作成費の削減額	2,790,000円			
4-13	正確な市政情報を発信する。	訂正記事の件数	0件			


[illegible]

【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	13			シート作成者		-		-	
事務事業名	公共施設見学会			事務区分	自治事務		部課かい名		企画部 秘書広報課
事業の目的	施設の目的や役割などについて広く理解を深めていただくことを目的として、市民で構成される団体に対して実施する。			事業の目標	団体の希望に応じた公共施設見学会の実施				
事業の概要	10名以上の市民(団体)を対象とした事業であり、①実施希望団体が望む日程②マイクロバスが予約できる日程③施設が受け入れに対応できる日程の3つを調整のうえ、職員が添乗して公共施設見学会を実施する。								
対象	市民			事業の性質区分	定例・定型		業務計画	<input type="checkbox"/>	
指標	実施回数								
27年度(第2次実施計画)		28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)		30年度(第3次実施計画)			
目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
8回	11回	12回		12回		12回			
事業費	実施計画事業費	27年度	28年度	29年度	30年度	※金額については1円単位で記入してください			
	予算額	-	0	0	0				
	決算額	0							
	執行率								
	従事者数	0.13	0.34						
	職員	0.11	0.29						
	臨時・非常勤等	0.02	0.05						
財源内訳	特定財源	国庫支出金							
	県支出金								
	地方債								
	その他								
	一般財源								

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性	
<p>当事業は、長年続いている名物事業であり、環境事業センター、浄水場、衛生研究所をはじめとする公共施設の普段目にするのができない部分を市民に見学してもらうことで、本市行政の役割や地域への理解を深めてもらうための有効な手段となっている。しかし、近年は参加団体が限られてきていること、マイクロバスの確保が困難なことなど、課題も多くなっている。</p>	
事業実施状況に対する分析(課題の抽出)	
事業成果	<p>27年度は11団体の見学会を実施した。このほか3団体がキャンセル待ちとなっていたが、条件が揃わなかったため実施できなかった。新規に実施した団体では、事業の目的に対して一定の効果があったと考える。一方で、自治会関係の利用が大半を占めており、本来の見学会の目的を果たしているのかは疑問である。</p>
事務効率	<p>①実施希望団体が望む日程②マイクロバスが予約できる日程③施設が受け入れに対応できる日程の3つが合致しなければ実施できない事業となっており、マイクロバスの確保が困難となっている近年は、予約ができた日程の中から実施希望団体に選んでもらっているのが現状である。予め見学コースを複数設定しているが、一部を変更して実施して欲しいという声も多く、それらの調整に時間を要している。当日の添乗は、非常勤嘱託職員が担うことが多い。</p>
<div style="text-align: center;">  </div>	
事業成果及び事務効率に対する評価	
<p>実施手法を十分検討したが、成果が見込めない(廃止)</p>	

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
事業の廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を廃止した場合に、どのような影響が生じるかを検討する。 ・施設の見学希望があった場合の対応方法を調整する。 ・28年度限りでの廃止を目指す。

4 事業を構成する活動に係る改善内容

[illegible][illegible][illegible][illegible]

【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	14					シート作成者	-	-
事務事業名	外国人への情報提供事業	事務区分	自治事務	部課かい名	企画部 秘書広報課			
事業の目的	外国人にとっての暮らしやすさを向上させる	事業の目標		外国人への市政情報、地域情報を英字新聞を活用して積極的かつ効果的に行う				
事業の概要	広報ちがさがきに掲載されている記事のほか市内に在住する外国人にとって役立ちそうな情報を掲載した英字新聞「Chigasaki Breeze」を編集・発行・配布する。							
対象	市内に在住する外国籍市民		事業の性質区分	定例・定型		業務計画	<input type="checkbox"/>	
指標	認知度(第2次実施計画) 発行部数(第3次実施計画)							
27年度(第2次実施計画)		28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)		30年度(第3次実施計画)		
目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
90%	61.9% (1,800部)	1,800部		1,800部		1,900部		
		27年度	28年度	29年度	30年度	※金額については1円単位で記入してください		
事業費	実施計画事業費	-	563,000	468,000	421,000			
	予算額	900,000	563,000					
	決算額	900,000						
	執行率	100.0%						
	従事者数	0.47	0.25					
	職員	0.47	0.25					
財源内訳	臨時・非常勤等							
	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	900,000	563,000					

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性	
市内に暮らす外国人に対して、市政情報、イベント情報、観光情報をはじめとする暮らしに役立つ情報や、日本の生活習慣に関する情報などを外国語で提供することは重要である。国際化が進む中で、国籍によるバリアを感じることはない暮らしやすく社会参画できるような環境づくりへのニーズは今後も増加が見込まれ、当該事業は継続的に取り組む必要がある。	
事業実施状況に対する分析(課題の抽出)	
事業成果	認知度の目標90%には至っていないものの、市内に在住する外国人の約6割に英字新聞「Chigasaki Breeze」が認知され、幅広く活用されている。市内に在住する外国人を国籍別に見ると、①中国②韓国で半数を超え、③フィリピン④タイ⑤アメリカ合衆国と続き、英語圏出身者よりも英語圏以外の出身者が多いが、現状では他の言語での情報紙の発行には対応できないという課題はある。
事務効率	当事業は、茅ヶ崎市国際交流協会への委託事業となっており、掲載する内容の企画、取材、筆耕、翻訳、編集、印刷、配布を同協会が担っている。市側は、「広報ちがさがき」から「Chigasaki Breeze」に掲載してほしい記事のピックアップと校正段階での確認のみの事務となっており、各々の役割分担が明確化され事務の効率化は図られていると思われる。
事業成果及び事務効率に対する評価	
実施手法は効率的かつ効果的であり、成果は今後見込める	

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
事業(活動)の成果を高める	現在は、市内の情報を掲載し、市内のみの配布となっているが、必ずしも、市内に住む外国人の生活圏が市内に限られているわけではない。また、委託先の茅ヶ崎市国際交流協会からは、日頃の外国人と接する活動を通して市以外の情報の掲載を求める声が多いとの報告も受けている。 これらのことから、今後は市以外の情報も掲載し、将来的には広域的な配布も視野に入れ、周辺市町に住む外国人にとっても役立つ情報紙づくりを目指す。

4 事業を構成する活動に係る改善内容

[illegible][illegible][illegible][illegible]